



農作業メモ

今年の稲作は減収の大ピンチ ヒメトビウンカが多発に注意

昨年産米の収量は、高温や台風・竜巻の影響で品質や収量が平年を下回りました。また、ヒメトビウンカの媒介によりキヌヒカリやコシヒカリではイネ縞葉枯病が発生し減収になりました。今年のヒメトビウンカの発生状況については埼玉県病害虫防除所が四月一日付けで予察注意報（第一号）を発令しました。

熊谷市内のヒメトビウンカ越冬世代幼虫の調査では、イネ縞葉枯ウイルス

表1. 保毒率

地点名	保毒率
上中条	4.2%
中曽根	20.3%
久保島	12.8%

(病害虫防除所調査)

保毒虫率が10%を超える地域が2か所もあり、昨年よりも多くの被害発生が懸念されます。

▼イネ縞葉枯病の特徴▲

この病気は「ヒメトビウンカ」(左写真)が媒介するウイルス病です。



写真は雄成虫で体長が約3ミリで、

麦類や畦畔雑草地で増殖し、水田や苗床に飛来して、ウイルスを媒介します。ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病の他に黒すじ萎縮病も媒介します。特に、イネの生育初期から幼穂形成期までにウイルス感染すると発病しますので、ヒメトビウンカの初期防除が重要です。

左の写真は縞葉枯病の発症株です。



▼防除方法▲

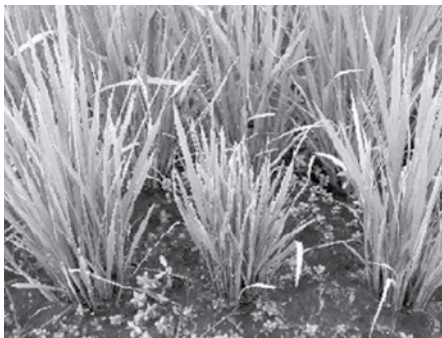
表2. ウンカ類の防除薬剤例 (箱施薬剤)

薬剤名	系統	使用方法	使用回数
ルーチンアドスピノ箱粒剤	ネオニコチノイド マクロライド その他	は種前、は種時(覆土前)～移植当日	1
ツインターボフェルテラ箱粒剤	ネオニコチノイド ジアミド その他	は種時(覆土前)～移植当日	1

(記載農業は平成26年4月23日現在)

キヌヒカリやコシヒカリは縞葉枯病抵抗性品種ではないので特に防除が重要です。五月中下旬に水稲の苗に飛来するヒメトビウンカを育苗中から移植時に防除をしましょう。

上の農業のいずれかを散布しましょう。なお、「彩のかがやき」や「彩のきずな」は縞葉枯れ病の抵抗性品種ですが、黒すじ萎縮病の抵抗性はありませんので、昨年黒すじ萎縮病(左の写真)が発生した圃場では、ヒメトビウンカの防除が必要です。同じように苗箱の箱施用をしましょう。



参考：イネ黒すじ萎縮病罹病株(前列真ん中)

今年地域で一斉に防除し、品質の良い米を収穫しましょう。

農業を使用する際は必ずラベルを確認しましょう。

(大里農林振興センター農業支援部)